

【今月の目次】

- 1.学校訪問による校内研修の支援について
- 2.ICT 活用ワンポイント講座「フォントを賢く使い分ける」
- 3.コラム「防災と ICT」



1.学校訪問による校内研修の支援について

ICT 教育支援センターでは、学校からの要請を受けて指導主事が学校を訪問し、情報教育に関する校内研修や研究会の講師を務め指導助言をしています。本年度は、これまでに小学校 2 校、中学校 1 校、高校 3 校を訪問しました。今回は、訪問した学校における研修内容を紹介します。

小・中学校からは、生成 AI を使うことのメリットについて教えてほしいという研修依頼が 3 校からありました。訪問した学校では、一度も生成 AI を活用したことがない先生が多かったことから、通知表の所見のアイデア出しや保護者に向けた文書の作成など、体験をメインにした研修会を実施しました。小・中学校では、各自治体により生成 AI の利用規約や方針、生成 AI ツールに違いがあることから、事前に各自治体の活用状況をお聞きし、使用できるツールを活用した研修会を企画しました。研修後、参加された先生方からは、「今日から使ってみたい」「今までの業務が楽になるかも！」といった前向きなご意見を多くいただきました。

訪問した高校 3 校の中の 1 校では、面接指導や小論文指導に生成 AI を活用したいという要望がありました。そこで県立学校に導入している Microsoft の Copilot を使い、プロンプト（指示や質問）の入力を支援する機能を紹介し、適切なプロンプトの入力により質の高い回答が得られることを体験していただきました。研修後の先生方からは、「Copilot を使う敷居が低くなった」「生成 AI の活用により業務の効率化につながり、時間短縮になる」「プロンプトの入力支援機能により、的確なプロンプト入力が可能になる」など数多くの感想が寄せられました。

今後も ICT 教育支援センターでは、指導主事が学校に訪問し、各校の要望に合わせた校内研修会や研究会の支援を実施していきます。校種を問わず随時募集しておりますので、まずはお気軽にご相談ください。

【バックナンバー(↓最後にリンク有↓)】

ypecICT 通信第 12 号（令和 7 年 6 月号）おまけ いまさら聞けない用語解説「プロンプト」



2.ICT 活用ワンポイント講座「フォントを賢く使い分ける」

文書やプレゼンテーション資料を作成する際、何となく使い慣れているフォントを選んでいませんか？しかし、場面に適したフォントの使い分けにより、資料の見やすさが格段に良くなりま

す。

和文フォントには、大きく分けて「明朝体」「ゴシック体」の2つがあります。明朝体は、長文でも目が疲れにくく読みやすいという特徴があります。そのため、長文や新聞、雑誌は明朝体が使われることが多いです。一方ゴシック体は縦と横の太さがほぼ同じなため、遠くからでも文字を識別しやすいという特徴があります。プレゼンテーション資料などではゴシック体が基本となります。また最近は、「教科書体」というフォントもあります。これは主に小学校の教科書で使われる筆書きの楷書体で、書き文字に近くなるよう工夫されています。

また、同じフォントでも「P ゴシック」など、P が付くものがあります。P は「プロポーショナル」の略で、P の有無は文字の幅に影響します。P が付かないものは文字の幅が均一。P が付くものは文字によって横幅が異なります。特に英単語などは文字幅が適切で、間延びせず見やすくなります。また、「UD 教科書体」など、UD と付くものもあります。UD は「ユニバーサルデザイン」のことで、誰にとっても読みやすいようにフォントが工夫されています。

いかがでしょうか。フォント 1 つ選ぶのにも、最近は様々な種類や工夫があります。それぞれの特徴を知り、適切なフォントを選んだり、時には新しいフォントを探したりすることも面白いかもしれませんね。



### 3.コラム「防災と ICT」

2011 年の東日本大震災では、音声通話に最大 70～95%の通信規制がかかり、数日間ほとんどつながらない状況となりました。一方、携帯メールなどのパケット通信は規制がかからず、比較的つながりやすい状態でした。さらに、インターネットを利用した X（旧 Twitter）や Facebook などのサービスは安定して機能し、安否確認に活用されました。

ただし、基地局はバッテリーによって稼働する場合がありますが、停電すると通信ができなくなるため、翌日以降はバッテリー切れによる通信不能の範囲が広がることもあります。

家庭のインターネット環境では光回線が一般的ですが、停電時には利用できなくなります。ただし、家庭用ポータブル電源などで ONU（光回線終端装置）と Wi-Fi ルーターに電源を供給できれば、通信が可能になる場合があります。※地域の交換局が被災している場合は通信できません。

児童・生徒・教員間の安否確認は、学校ごとにルールがあると思いますが、1 つの手段に依存するのは危険です。緊急時には以下のような複数の連絡手段を確保しておくことが重要です。

- ・学校のホームページ
- ・普段使っている連絡手段（校務支援システムや欠席・安否確認サービスなど）
- ・Microsoft Teams・Forms や Google Classroom・Form などの ICT ツール

防災訓練では、児童・生徒・保護者に安否を返信してもらう、URL をブックマークに登録するなど、オンラインに対応した訓練も取り入れると効果的です。また、学校側も、管理職や学校施設から情報発信ができない場合を想定し、情報発信方法や業務再開の方針を検討項目としておくことがよいでしょう。



おまけ いまさら聞けない用語解説

今月の用語「フィルターバブル (Filter Bubble)」

フィルターバブルとは、インターネット上で閲覧する情報が、アルゴリズムによって自分の過去の検索履歴やクリック履歴、興味・関心に基づいて選別され、偏った情報ばかりが表示される現象を指します。その結果、まるで自分の興味や考えと似た情報でできた透明な泡（バブル）の中に閉じ込められたような状態になることからフィルターバブルと呼ばれています。（参考：「情報通信白書令和5年版（総務省）」）

---

ICT 教育支援センターでは、各校で取り組んでいることや取り組もうとしていることへの支援に加えて、ICT 機器やソフトウェア、ネットワーク等に関する相談支援や学校訪問など随時対応しております。校内研修や研究会において、ICT 教育支援センターを活用していただきたいと思います。お気軽にご相談ください。

---

-----  
山梨県総合教育センター ICT 教育支援センター

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田 1456

TEL:055-262-5508（直） /FAX:055-262-5572

お問い合わせは [こちらへ](https://forms.office.com/r/wyuB8BRNg2) <https://forms.office.com/r/wyuB8BRNg2>

-----  
バックナンバーは [こちら](https://www.ypec.ed.jp/?page_id=6492) [https://www.ypec.ed.jp/?page\\_id=6492](https://www.ypec.ed.jp/?page_id=6492)